

令和元年度 自己評価表

中長期目標 (学校ビジョン)	<b>学び 輝き 感動のある学校</b> 幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、よりよく生きることができるようにする学校 《18歳で自立できる人を育てる ～将来を見とおした今のQOLの向上～》	今年度の重点目標	1 幼児・児童・生徒一人一人が「いきいきと学ぶ」教育に努める。 2 幼児・児童・生徒の健康と安全を守る。 3 保護者の願いや地域の期待に応える。 4 センターの機能を推進する。 5 開かれた学校を推進する。
-------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初			評 価 結 果 ( ) 月		
		現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
一人一人が「いきいきと学ぶ」教育の充実	小学部 病状や実態に応じた支援や教育の工夫	○児童の不安軽減のため、場面に 応じた具体的な支援を工夫すること で、登校が安定し、活動の幅が 大きく広がった。 ○将来の進路を見据えて、他者と 協働して学習や活動に取り組む経 験を広げる必要がある。	○分校内の協働的な学習や本校児 童との交流を通して安心してかか われる人や場が増え、成功体験を 重ねて自信をつけ、安定した気持 ちで学校生活を送ることができて いる。	○中学部生徒や複数の教職員とかかわり ながら学習する場面を計画的に設定す る。 ○本校児童との交流を深め、同世代との 学習に複数回取り組む。 ○保護者、医療、スクールカウンセラー との連携を密にして病状を的確に把握 し、不安がコントロールできるように支 援する。			
	中学部 自己理解に基づく心の安定と意欲を高める支援の充実	○生徒に寄り添いつつ心の安定を 図り、様々な取り組みをやり遂げ ることで自信につなげ授業への出 席率が上がった。 ○苦手なことに対して折り合いを つけ、自分に合った方法を見つけ て取り組もうとする気持ちにさせ る必要がある。	○授業の出席率が上がった状態を 維持し、進路に向けて自己の課題 を認識し、自分に合った方法で苦 手なことにも取り組めるように なっている。	○アンケートを工夫し、カウンセリング や面談を通して自己理解を深める。 ○他者理解と経験を深めて、お互いを大 切にし合うことを学ぶために、本校生徒 との交流を複数回取り組む。 ○本人、保護者、教職員が生徒の病気や 学習状況を共有し、情報交換しながら個 に応じた学習指導や進路指導に努める。			
ニーズに対応できる専門性の向上	研究部 深い学びにつながる交流と授業改善	○児童・生徒の心の安定を図った り、ICTを有効に活用して授業改善 したりすることができた。 ○自分の思いを出せるようになって きたが、「主体的・対話的で深い 学び」には実態に応じ、段階を 追って取り組む必要がある。	○本校との交流が活かされている 形で、児童・生徒の実態に応じた 「主体的・対話的で深い学び」を 取り入れた授業改善がなされてい る。	○児童・生徒の実態に応じた専門的な研 修・ICT研修への参加及び授業や行事等 での実践を行う。 ○皆浜分校の一員としての自覚と誇りを 持つことができる学習や定期的な交流を 取り入れる。			
	支援部 将来につながる教育相談と進路指導の充実	○研修や実践を通して病状や障が いの特性への理解、支援について 共通認識ができた。 ○本校や関係諸機関と連携を密に し、適切な教育相談を行って将来 を見据えた進路指導の充実を図る 必要がある。	○専門性の向上により児童生徒や 保護者との確かな信頼関係が築か れ、キャリア教育の視点に立った 適切な進路指導により、アンケ ートでの満足度も高くなっている。	○教育相談、病気や障がいの特性につ いての研修を工夫し、専門性を向上させ ることで、日常の教育相談を充実させる。 ○本校、医療、福祉、スクールカウンセ ラー等と連携して継続的な支援を行い、 卒業後を見据えた適切な進路指導を行 う。			
学校生活における健康と安全の確保	健康安全部 心身ともに良好で、登校して学習や行事に意欲的に参加できる環境づくり	○緊張の連続、疲れ、不安などか ら学校や学習、行事などに向かえ ない子がいる。 ○心の問題が体に表れるので健康 観察を丁寧に実施し、その日の児 童生徒の心身の状況を把握し、支 援する必要がある。	○児童生徒の心身の状況を把握す ることで、無理のない形で授業や 行事に参加できる環境が整い、出 席率が上がっている。	○朝の健康観察の他にも常時心身の状況 を把握し、情報を共有して支援に努め る。 ○安心して学校で過ごせるよう自分の心 身の状況を訴えることができ、共に考え 解決できるよう支援していく。			

評価基準 A: 十分達成 [100~80%] B: 概ね達成 [80~60%程度] C: 変化の兆し [60~40%程度] D: まだ不十分 [40~30%程度] E: 目標・方策の見直し [30%以下]